

T-GEx

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業

Tokai Pathways to Global Excellence

令和７年度　年次報告書

目次

1　はじめに　3

2　育成対象者
2-1　令和 7 年度採用者　5
1）T-GEx フェロー
2）T-GEx アソシエート
3）T-GEx 企業アソシエート
2-2　令和 7 年度終了者　7
1）T-GEx フェロー
2）T-GEx アソシエート
3）T-GEx 企業アソシエート

3　育成プログラム
3-1　トランスファラブルスキル　9
3-2　e-ポートフォリオ
10
3-3　リトリート合宿　10
3-4　研究成果エキシビション　11
3-5　ロールモデルセミナー　11
3-6　若手研究者レクチャーDeep-Dive Dialogues（D³ ：D-cubed）　12
3-7　学術メンター・企業アドバイザー　13
1）T-GEx フェロー
2）T-GEx アソシエート
3）学術メンターに対するアンケート調査
3-8　スタートアップ研究費　17
3-9　テーラーメード型研究費　17
3-10　シーズ共同研究費　17
3-11　国際力強化支援　18
3-12　その他支援　19
3-13　育成プログラムに関するアンケート調査　19

4　モニタリング
4-1　採用した T-GEx フェローの属性一覧　20
4-2　T-GEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況　20
4-3　T-GEx フェローの研究成果の創出状況　22

5　運営体制
5-1　実施機関　23
1）実施体制
2）運営関係者
5-2　連携機関　24
1）連携体制
2）事業推進委員
5-3　委員会等　25
1）知の「開拓者」コンソーシアム総会
2）事業推進委員懇談会
3）運営協議会
4）実務委員会
5）連携会議
6）定例会議
5-4　外部評価委員　27

6　事業中間評価　27

7　予算減額の対応　27

8　寄附金　27

1　はじめに

令和３年 10 月に立ち上げられた世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業（Tokai Pathways to Global Excellence, T-GEx）の令和７年度報告書をここにお届けいたします。この間、T-GEx の事業展開にご尽力くださった名古屋大学、岐阜大学、連携学術機関、連携企業の関係者の皆さまに、改めて御礼申し上げます。そして何よりも、種々のセミナーや催しに企画段階から積極的に関与し、T-GEx の活動を豊かなものにしてくれた T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートの皆さんに心より感謝申し上げます。

令和７年度の開始とともに、新たに５名の T-GEx フェロー（うち岐阜大学所属１名、合計 22 名）、５名の T-GEx アソシエート（合計 13 名）、５名の T-GEx 企業アソシエート（合計 10 名）が加わり、本事業に集う若手研究者は総勢 45 名となりました。近年の企業アソシエートの増加により、T-GEx に集う若手研究者の多様性は着実に拡大しています。現在の T-GEx は、東海地域の優秀な若手研究者が集うハブとして発展したと言ってよいでしょう。

一方、令和７年度末には、事業開始時に採用され５年間の育成期間を修了した７名に加え、他大学でポストを獲得した１名が T-GEx を「卒業」しました。本事業の立ち上げ当初から活動をともにして本事業を一緒に育ててきた若手研究者が巣立っていくことには感慨深いものがあります。しかし同時に、彼ら・彼女らの研究活動を通じて T-GEx の理念や成果が日本各地へと広がり、新たな発展の種が各地に根付いていくことを期待しています。

事業開始から５年目という節目の年となった令和７年度には、記録に残すべきいくつかの重要な取組を実施しました。リトリート合宿や研究成果エキシビションといった恒例のイベントに加え、新たな試みとして、令和７年 12 月 17 日に Deep-Dive Dialogues（D^3: D-cubed）を研究成果エキシビションと同日に開催しました。D^3 は、若手研究者同士が互いの研究をより深く理解し、分野横断的な対話を進めたいという要望を受けて企画されたものです。準備段階では若手研究者自身がタスク・フォースを結成し、発表言語や字幕利用のあり方などについて丁寧な議論を重ねながら実施形式を構築しました。当日は２名の T-GEx フェローによる研究紹介と活発な討論が行われ、参加者アンケートでも高い評価を得ることができました。D^3 は、研究についてじっくりと語り合い、将来の共同研究や新たな研究の着想につながる場として、今後の定着と発展が期待されています。

こうした事業実施・運営の努力を重ねるかたわら、令和７年度には T-GEx 事業の中間評価にも臨みました。実務委員会、URA、事務局が中心となって報告書等の資料作成を行い、大学執行部の全面的な支援も得ながら準備を進めた結果、中間評価では「A」という評価を得ることができました。計画された事業を着実に実施していること、多数の東海圏の大学・研究機関・企業を巻き込んだコンソーシアム運営を実現していることなどについて高い評価をいただいた一方で、プログラムの全国展開や若手研究者の成長度を測る KPI の設定など、今後取り組むべき課題も指摘されました。評価委員会からいただいたご意見を今後の事業運営に活かし、最終評価に向けてさらなる改善に努めるとともに、T-GEx の意義や成果をより広く理解いただけるよう、発信の在り方についても検討を重ねてまいります。

もっとも、令和７年度を通じて最大の課題であり続けたのは、前年度に通知された令和８年度の予算減額への対応でした。国立大学を取り巻く財政環境が厳しさを増すなか、T-GEx においては中間評価を迎える以前の段階で予算減額方針が示されていたことから、対応策の検討と学内外の調整には大きな労力を要しました。実務委員会、URA、事務局が一体となって検討を重ね、限られた資源の中で事業の質と持続可能性をいかに確保していくかについて真摯な議論を続けてきました。事業予算の確保は、今後

の T-GEx の発展にとって引き続き重要な課題です。

その一方で、令和 7 年度も連携企業であるダイドー株式会社様からご寄付を賜ることができました。これまで T-GEx とダイドー株式会社様が協力して実施してきたロールモデルセミナーは、令和 7 年度をもって一区切りとなる可能性がありますが、これまで築いてきた信頼関係を基盤として、新たな連携のかたちを模索してまいりたいと考えております。

以上のように、事業後半に入った現在も、T-GEx には取り組むべき課題が少なくありません。しかしながら、厳しい環境に直面しているからこそ、本事業の価値はむしろ一層重要になっていると考えています。複雑化する世界的課題に挑み、学術界のみならず社会のさまざまな場で活躍する次世代研究者の育成は、決して後退させることのできない使命です。本事業に集う優秀な若手研究者が、そのポテンシャルを十分に発揮しながら研究者として成長していけるよう、T-GEx は今後も創意工夫を重ね、事業の価値を維持・発展させるための努力を続けてまいります。

本報告書を通じて、T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートの令和 7 年度における活躍の一端をご覧いただければ幸いです。

令和 8 年 10 月

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業
プログラムマネージャー
武田 宏子

2　育成対象者

2-1　令和 7 年度採用者

1）　T-GEx フェロー

令和 7 年度の T-GEx フェローは、名古屋大学と岐阜大学で公募し、各大学における学内選考を行った後、実務委員会（選考・評価委員会）で最終選考（2 段階選抜）した。最終選考はオンラインによる総合面接で行い、審議を経て表 2-1-1 に示した 5 名の新規採用を決定した。

表 2-1-1　令和 7 年度に新規採用された T-GEx フェロー（採用時）

採用年度	大学　所属部局 氏名　職名	研究テーマ名
令和7年度	名古屋大学　大学院理学研究科 田中 良弥　講師	害虫による被害拡大・世界的な殺虫剤抵抗性の出現がもたらす健康問題と食糧問題
	名古屋大学　大学院工学研究科 本田 康平　助教	次世代ロボットのための環境適応可能な視覚型自律移動知能の開発
	名古屋大学　医学部附属病院 由良 義充　病院助教	クローン性造血が拓く心血管病診療の新時代 ― 基礎研究成果を社会実装へ繋ぐ挑戦
	名古屋大学　高等研究院/大学院教育発達科学研究科 Raquel Filomena Pereira COSTA　YLC特任助教	Bridging Worlds: Exploring Turn-Taking Communication Between Apes and Humans to Promote Nature Conservation, One Health, and Responsible Tourism
	岐阜大学　高等研究院/大学院医学系研究科 岡田 大瑚　G-YLC特任助教	ブロックチェーン技術によるゲノム研究のプロジェクト管理の革新

なお、令和 7 年度の採用倍率は約 6 倍となり、前年度を大きく上回った。これは、名古屋大学において、公募に先立ち実施責任者らが各部局へ申請を働きかけた取組の効果が表れたものと考えられる。

2）　T-GEx アソシエート

令和 7 年度の T-GEx アソシエートは、 6 つの連携学術機関において募集と推薦者の選考を実施いただき、実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認・承認を経て、表 2-1-2 に示した新規採用者 5 名を含む合計 13 名の採用を決定した。なお、採用された T-GEx アソシエートには、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表 2-1-2　令和 7 年度に新規採用された T-GEx アソシエート（採用時）

採用年度	連携学術機関　所属部局 氏名　職名	専門分野
令和7年度	中部大学　創発学術院 / AI数理データサイエンスセンター 森田 尭　特任講師	計算言語学・計算認知科学
	中部大学　人文学部心理学科 山内 星子　准教授	臨床心理学
	南山大学　法学部 宮尾 亮甫　専任講師	行政法・地方自治法・環境法
	名城大学　人間学部 髙橋 香苗　助教	家族社会学・社会調査法
	名城大学　薬学部 仲吉 朝希　助教	計算化学

3） T-GEx 企業アソシエート

令和 7 年度の T-GEx 企業アソシエートは、コンソーシアムに参画いただいている 14 の連携企業に対して募集を行い、推薦者の選考を依頼した。また、令和 7 年度中に新規参画した企業の 1 社から T-GEx 企業アソシエートの追加推薦があった。これら推薦者は、いずれも実務委員会（選考・評価委員会）における応募書類の確認、承認を経て合計 10 名の採用が決定された。表 2-1-3 には新規に採用された 5 機関からの 5 名を示した。なお、採用された T-GEx 企業アソシエートに対しても、名古屋大学高等研究院客員研究員の身分を付与し、東海国立大学機構の設備・機器共用システムや図書館の利用も可能とした上で育成を開始した。

表 2-1-3　令和 7 年度に新規採用された T-GEx 企業アソシエート（採用時）

採用年度	連携企業　所属部署 氏名　職名	主な業務内容、研究内容
令和 7 年度	東海光学ホールディングス株式会社　開発本部 小路 真史　副主席	眼鏡レンズ、評価手法の開発、社内知見データ活用のためのAIアプリケーション開発
	株式会社ネオレックス　技術グループ開発チーム 天筒 智也　Senior Engineer	システム開発
	ホーユー株式会社 総合研究所 先端技術研究室 新領域研究課 澁谷 拓未　係長	アレルギーに関する基礎・臨床研究／皮膚科学および毛髪科学に関する基礎・応用研究
	浜松ホトニクス株式会社　中央研究所 公文 広樹　ミドルスタッフ	光学素子を用いたオンチップ計測の先駆的な研究
	東海東京証券株式会社　投資銀行カンパニー 名古屋企業金融部 兼 スタートアップ支援室 王 家元　マネージャー	未上場企業の新規上場支援、上場企業のファイナンス支援、スタートアップの成長支援

2-2　令和 7 年度終了者

1）　T-GEx フェロー

T-GEx フェローの育成期間は 5 年間に設定しており、令和 3 年度に採用され、令和 7 年度までの育成期間を 7 名が満了した（表 2-2-1-1）。プログラムにおける活動実績や育成トラックの目標達成度合いを総合的に評価し、6 名に Certificate of Completion、1 名に Certificate of Outstanding Achievements が授与された。終了者は、今後、T-GEx アルムナイとして各種イベント等に参加し、自身のキャリアの進展や経験を知の「開拓者」間で共有していく予定である。

表 2-2-1-1　令和 7 年度末に育成期間を満了した T-GEx フェロー（終了時）

採用年度	大学　所属部局 氏名　職名	研究テーマ名
令和3年度	名古屋大学　大学院工学研究科 東 直輝　助教	病原菌の世界規模でリアルタイムな感染拡大対策の実現
	名古屋大学　高等研究院/大学院理学研究科 Matthew Paul Su　YLC特任助教	Reducing global Aedes aegypti mosquito-borne disease transmission by developing control tools targeting the circadian clock
	名古屋大学　大学院生命農学研究科 萩尾 華子　助教	魚の高次視覚系の解明とウナギの完全養殖の商業化を目指して
	名古屋大学　大学院医学系研究科 服部 祐季　准教授	母体炎症によるミクログリア活性化と脳発生への影響の解明
	名古屋大学　宇宙地球環境研究所 早川 尚志　助教	歴史文献による過去3000年間の激甚太陽嵐の調査と定量復元
	名古屋大学　素粒子宇宙起源研究所 宮武 広直　准教授	次世代大規模銀河サーベイによる精密銀河団宇宙論
	名古屋大学　医学部附属病院 横井 暁　講師	変遷する女性のトータルヘルスケア課題－妊娠からがんまで－

また、転出により令和 7 年度末にフェロー 1 名の育成を終了した（表 2-2-1-2）。

表 2-2-1-2　令和 7 年度中に育成を終了した T-GEx フェロー（終了時）

採用年度	大学　所属部局 氏名　職名	研究テーマ名
令和4年度	岐阜大学　大学院連合創薬医療情報研究科 平島 一輝　特任助教	ミトコンドリア栄養代謝を標的とした新しいがん治療戦略

なお、令和 4 年度に採用されて 3 年以上のフェロー在籍期間があり、プログラムの所定の要件を満たして育成を終了した平島一輝特任助教には、Certificate of Completion が授与された。

2)　T-GEx アソシエート

T-GEx アソシエートの育成期間は 1 年以上 5 年までに設定しており、転出などの事由により令和 7 年度末に表 2-2-2 に示した 3 名の育成を終了した。

表 2-2-2　令和 7 年度中に育成を終了した T-GEx アソシエート（終了時）

育成終了月	大学　所属部局 氏名　職名	採用年度	育成期間
令和 8 年 3 月	三重大学　教育学部 市川 俊輔　准教授	令和 5 年度	3年
令和 8 年 3 月	南山大学　人文学部キリスト教学科 南 翔一朗　講師	令和 6 年度	2年
令和 8 年 3 月	中部大学　人文学部心理学科 山内 星子　准教授	令和 7 年度	1年

なお、プログラムの中で顕著な活躍が認められた市川俊輔准教授、山内星子准教授の 2 名に、Certificate of Outstanding Achievements が授与された。

3)　T-GEx 企業アソシエート

T-GEx 企業アソシエートの育成期間は 1 年以上 5 年までに設定しており、所属企業の判断などの事由により令和 7 年度中に表 2-2-3 に示した 3 名の育成を終了した。

表 2-2-3　令和 7 年度中に育成を終了した T-GEx 企業アソシエート（終了時）

育成終了月	大学　所属部局 氏名　職名	採用年度	育成期間
令和 8 年 3 月	トヨタ自動車株式会社　R-フロンティア部 松田 健郎　主任	令和 6 年度	2年
令和 8 年 3 月	株式会社豊田中央研究所　量子デバイス研究領域 舟山 啓太　研究員	令和 6 年度	2年
令和 8 年 3 月	株式会社豊田中央研究所　ヒューマンサイエンス研究領域 渥美 範俊　研究員	令和 6 年度	2年

なお、プログラムの中で顕著な活躍が認められた松田健郎主任、舟山啓太研究員、渥美範俊研究員の 3 名に Certificate of Outstanding Achievements が授与された。

3　育成プログラム

3-1　トランスファラブルスキル

T-GEx の育成プログラムでは、T-GEx フェロー、アソシエートが身に付ける様々なトランスファラブルスキルを、6 つのコンピテンシー（高度な専門性、協働力、課題発見力、世界の潮流をつかむ力、出口志向感覚、研究推進力）からなる知の「開拓者」スキルフレームワークで整理・分類して設定している。T-GEx フェロー、アソシエート、企業アソシエートは、スキルブースターモジュールへの参加、研究活動、社会実践活動等を通して、これらのコンピテンシーを向上させる。

令和 7 年度はスキルブースターモジュールを 21 回開催した。詳細は表 3-1 の通りである。

表 3-1　令和 7 年度に実施したスキルブースターモジュール

年度	開催日	講座等名称	モジュールの分類		協働力	高度な専門性	課題発見能力	世界の潮流をつかむ	出口志向感覚	研究推進力
令和７年度	2025年4月25日(金)　14:00～15:10	JST戦略的創造研究推進事業（CREST,さきがけ, ACT-X）攻略セミナー	マネジメントスキル			■				■
	2025年5月20日（火）14：00～16：00	**PI育成セミナー** 『論文のインパクトを高めるグラフィカルアブストラクトの作り方』	マネジメントスキル	コミュニケーション		■				■
	2025年6月18日（水）14：00～15：00	**PI育成セミナー** 『若手研究者のための科研費攻略セミナー2025』	マネジメントスキル			■				■
	2025年7月22日（火）14：00～16：00	**PI育成セミナー** 『仮想研究室のつくり方ーゼミナールを軸に学習環境を見立てるー』	マネジメントスキル	コミュニケーション	■					■
	2025年9月10日（水）14：00～15：30	**PI育成セミナー** 『大学発ベンチャーの創り方 ～ベンチャー設立に向けたGAPファンド経験談～』	社会実践活動						■	
	2025年10月21日（火）15：00～16：30	**PI育成セミナー** 『アウトプットを最大化する 研究室マネジメント最前線 ― 研究の話もちょっとします ―』	マネジメントスキル	コミュニケーション	■					■
	2025年11月28日（金）14：00～15：30	**PI育成セミナー** 『社会実装のための知的財産の基礎知識と研究成果を特許にすべき理由ー研究成果の実用化に向けてー』	マネジメントスキル	社会実践活動					■	
	2025年8月26日（火）13：30～15：00	**研究者リーダーシップ・プログラム2025** 『参加者による自己紹介とリーダーシップについて』	ロールモデル研究	ネットワーク構築			■			■
	2025年9月3日（水）13：30～15：00	**研究者リーダーシップ・プログラム2025** 『キャリアについて考える』	マネジメントスキル	ロールモデル研究			■			■
	2025年10月7日（火）13：30～15：00	**研究者リーダーシップ・プログラム2025** 『自己理解を深め、他者理解・相互理解につなげる』	マネジメントスキル	ロールモデル研究			■			■
	2025年11月14日（金）13：30～15：00	**研究者リーダーシップ・プログラム2025** 『キャリアアップのためのアクションプラン』	マネジメントスキル	ロールモデル研究			■			■
	2026年1月14日（水）13：30～15：00	**研究者リーダーシップ・プログラム2025** 『研究者にとってのタイムマネジメント』	マネジメントスキル	ロールモデル研究			■			■
	2025年11月20日（木） 2025年11月27日（木） 2025年11月28日（金）１時間/研究者	英語プレゼンテーション研修	コミュニケーション			■		■		
	2025年10月25日（土）14：15-18：30	**ロールモデル研究セミナー** 『トップリーダーズトーク ：ダイドー株式会社 山田貞夫 総帥 x 名古屋大学 杉山直 総長』	ロールモデル研究				■		■	
	2025年6月12日（木）9:30～19:00	**高等研究院セミナー** Oron Catts氏　講演会 『Life (sciences) and Art』	ロールモデル研究				■	■		
	2025年9月26日（金）16:00～17:30	**岐阜大学セミナー** 『スタートアップのTechnology CommercializationとBusiness Development』	社会実践活動						■	
	2025年9月1日（月）9:30～19:00	リトリート合宿：世界的課題に挑む新規共同研究の芽を生み出す	ネットワーク構築	リトリート			■			■
	2025年9月2日（火）9:30～16:00	リトリート合宿：シーズ共同研究促進に向けた議論、産学横断キャリア相談・情報交換会	ネットワーク構築	リトリート	■		■			
	2025年12月17日（水）10：00～11：00	若手研究者レクチャー　T-GEx Deep-Dive Dialogues（D3：D-cubed）	ネットワーク構築	コミュニケーション		■		■		
	2025年12月17日（水）13:00～18:00	研究成果エキシビション：「研究と社会の接点」	ネットワーク構築	コミュニケーション		■	■			
	2026年1月15日（木）10:00～13:00	高等研究院若手大交流会	ネットワーク構築	コミュニケーション	■		■			

3-2　e-ポートフォリオ

T-GEx プログラムへの参加を通じて、育成期間中に 6 つの知の「開拓者」コンピテンシーがどのように向上していくのかを分析するためのツールとして、T-GEx フェロー向けに、e-ポートフォリオを開発した。e-ポートフォリオでは、T-GEx フェローが、①研究活動を通して向上したコンピテンシー、②スキルブースターモジュールの参加を通して向上が期待されるコンピテンシー、③学術メンター・企業アドバイザーとの面談についても記録し、研究活動全般を振り返るためのツールとして使用できるように構築した。令和 7 年度は、記録方法について見直しを行い、T-GEx フェローの負担削減のため、②に関しては、T-GEx 事務局で e-ポートフォリオを用いずに管理する方法を検討し、③に関しては引き続き e-ポートフォリオに入力することとした。

3-3　リトリート合宿

●日時：令和 7 年 9 月 1 日～9 月 2 日（1 日目：9 時 30 分～19 時、2 日目：9 時 30 分～16 時）

●場所：JR ゲートタワーカンファレンス

T-GEx フェロー、アソシエート、企業アソシエートが、互いの研究内容や研究者像を理解し、近い将来に始動可能な異分野共同研究ユニットの模索および永続的に協力し合える T-GEx 研究者ネットワークを構築することを目的として、リトリート合宿を開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースとして実施し、由良義充フェロー（名古屋大学）、田中良弥フェロー（名古屋大学）、森田尭アソシエート（中部大学）、山内星子アソシエート（中部大学）、小路真史企業アソシエート（東海光学ホールディングス株式会社）が担当した。

令和 7 年度は、企画 1「世界的課題に挑む新規共同研究の芽を生み出す」、企画 2「シーズ共同研究促進に向けた議論」、企画 3「産学横断キャリア相談・情報交換会」を実施した。 企画 1 では、全員によるショートプレゼンテーションを踏まえ、大胆かつ自由な発想で世界的課題に挑むプロジェクトを構想する機会とした。ここでは、楽しさと創造性を重視しつつも、単なるアイデアにとどまらず、将来的に実現可能な研究プロジェクトへと発展し得るレベルまで落とし込むことが目指された。

企画 2 では、これまでにシーズ共同研究費に採択された 3 つの研究チームからの研究紹介、共同研究開始の経緯や共同研究を進めるための知見を共有した。その後、共同研究促進のための全体議論を通じて、今後の研究活動に資する実践的な指針を得ることを目指した。

企画 3 では、アカデミア、企業の研究者が集う T-GEx の特徴を活かしたキャリア相談・情報交換会を実施した。アカデミア、企業の研究者で感じている課題について、どのような共通点があり、どのような違いがあるかを知り、自身のキャリア形成に生かすことを目指した。

今年度の参加者は 32 名（フェロー16 名、アソシエート 9 名、企業アソシエート 7 名）で、多様な専門分野・業種の研究者が参加した。リトリート合宿の参加を通じて、シーズ共同研究の提案内容を考えるとともに、日頃の活動では得ることのできない刺激や活力を得る機会となった。

3-4　研究成果エキシビション

●日時：令和 7 年 12 月 17 日 13 時～18 時

●場所：名古屋大学 EI 創発工学館 FUJI ホール

研究成果の発信、研究の発展や社会実装に向けた情報収集と情報交換、ネットワーク構築等を実践する機会として、研究成果エキシビションを開催した。本イベントの企画・運営はタスク・フォースで実施し、岡田大瑚フェロー（岐阜大学）、本田康平フェロー（名古屋大学）、高橋香苗アソシエート（名城大学）、宮尾亮甫アソシエート（南山大学）、澁谷拓未企業アソシエート（ホーユー株式会社）が担当した。

令和 7 年度は、開催テーマとして「研究と社会の接点」を掲げ、コンソーシアム内外から約 110 名に参加いただいた。最初に東京大学の横山広美教授から「ポピュリズム時代の科学信頼」というタイトルで特別講演いただき、科学と社会の関係性や、現代における科学の信頼のあり方について、多角的な視点からの考えが示され、活発な質疑応答が行われた。これに続いて、若手研究者の 36 演題がショートプレゼンテーションで説明され、最後にポスターセッションで 37 演題の発表が行われ、活発な意見交換が繰り広げられた。

なお、参加者の投票によって、ショートプレゼンテーションの最優秀賞には李乃琦フェロー（名古屋大学）、田村秀希アソシエート（豊橋技術科学大学）、澁谷拓未企業アソシエート（ホーユー株式会社）、ポスターセッションの最優秀発表賞には、上野藍フェロー（名古屋大学）、宇佐見享嗣フェロー（名古屋大学）、野崎佑典アソシエート（名城大学）、田村秀希アソシエート（豊橋技術科学大学）、澁谷拓未企業アソシエート（ホーユー株式会社）、山本真之企業アソシエート（株式会社デンソー）が選出された。

3-5　ロールモデルセミナー

1）トップリーダートーク：ダイドー株式会社・山田貞夫 総帥 x 名古屋大学・杉山直 総長

●日時：令和 7 年 10 月 25 日 15 時～17 時

●場所：ダイドー株式会社ロボット館（名古屋駅）

第 4 回のロールモデルセミナーは、昨年度に引き続き、トップリーダーとして大きな組織を牽引しているダイドー株式会社・山田貞夫 総帥と名古屋大学・杉山直 総長の対談から学ぶ機会を設定した。山田総帥は、戦後の混乱期に機械や装置に欠かせないベアリングやプーリーといった部品の商社として事業基盤を構築し、早い時期から製造現場のオートメーション化の必要性に着眼して、ロボット事業などを含め年間 1000 億円規模の売上を誇る専門商社を作り上げた卓越した経営者である。対談では、その経営哲学や人生観に加え、若い頃の経験や、ご家族、とりわけ奥様とのエピソードなども交えながら、自らの歩みについて率直に語られた。参加者との質疑応答では、「好きなことに挑戦することの大切さ」「人と異なる道を恐れず進むこと」「良い出会いと縁を大切にすること」などが研究者のキャリア形成にも通じる考え方として紹介された。また、若手研究者に対しては、独創性を持って研究に取り組み、研究活動を楽しみながら社会や我が国の発展に貢献してほしいとの期待が寄せられた。

また、セミナーに先立って、希望者には、ポートメッセなごやで開催された工作機械見本市「メカトロテックジャパン 2025」の見学機会もいただいた。参加した若手研究者は、最新鋭のロボット技術を間近で見て大きな関心を示し、活発に見学していた。

3-6　若手研究者レクチャーDeep-Dive Dialogues（D^3：D-cubed）

●日時：令和 7 年 12 月 17 日 10 時～11 時

●場所：名古屋大学 EI 創発工学館 FUJI ホール

毎年実施している育成プログラムに関するアンケートに、フェローから「研究内容を丁寧に紹介し、深くディスカッションする機会が欲しい」という声が寄せられ、それに応える形で、新たな試みとして若手研究者レクチャーDeep-Dive Dialogues を開催した。

本イベントの企画・運営はタスク・フォースで実施し、新谷正嶺アソシエート（中部大学）、公文広樹企業アソシエート（浜松ホトニクス株式会社）、Raquel Costa フェロー（名古屋大学）が担当し、Fanny Bellegarde フェロー（名古屋大学）が YLC セミナーとの調整で協力した。タスク・フォースにおける議論や若手研究者へのアンケート調査の結果、１回のイベントに 25 分程度の発表を２演題設定し、質疑応答の時間も十分確保する方針となった。また、国際性と議論の質を両立させるため、英語スライドを使用して発表者が選択する言語で説明するフォーマットとし、日英の要旨、用語集、字幕で補足することにより、分野や国籍の壁を克服することとした。

初回は、服部祐季フェロー（名古屋大学）から「脳内マクロファージの脳定着プロセスと性質多様性」、Matthew Su フェロー（名古屋大学）から「Investigating mosquito hearing systems and behaviors」というタイトルで研究紹介いただいた。いずれも他分野の研究者にも理解できるように工夫された内容で、事後アンケートでも 8 割以上が高い満足度と評価した。また、発表のフォーマットに対しても 7 割以上が賛成し、反対は無かった。参加した実務委員からの評価も高く、本イベントは次年度も新たな試みを模索しつつ継続実施することになった。

3-7　学術メンター・企業アドバイザー

1）　T-GEx フェロー

学術メンター制度は、これまでフェーズ 1（初年度）で専門分野に詳しい 1 人目を設定し、フェーズ 2（2 年目）から選択している育成トラックを考慮した 2 人目を追加設定するダブルメンター体制で実施してきた。しかし、1 人目の学術メンターを研究室の上司や受入れ教員に依頼することについては、開発普及委員や外部委員から見直すことが望ましいとの助言があったため、今年度、実務委員会で議論し、大幅な制度変更を実施した。

具体的には、図 3-7-1-1 に示した通り、これまで 1 人目の学術メンターをお願いしていた先生方には、新設した「アドバイザー」に就任いただき、フェローのプログラム参加を引き続き支援いただくこととした。また、新たな 1 人目の学術メンターには、高度な専門研究を理解できる学内教員に就任いただくことを基本にした。なお、2 人目の学術メンターについては特に変更せず、国際共同トラックを選択している場合は海外の研究者、学際共同研究トラックを選択している場合は異分野の研究者、産学連携トラックや企業トラックを選択している場合は企業アドバイザーを積極的に設定することを推奨している。

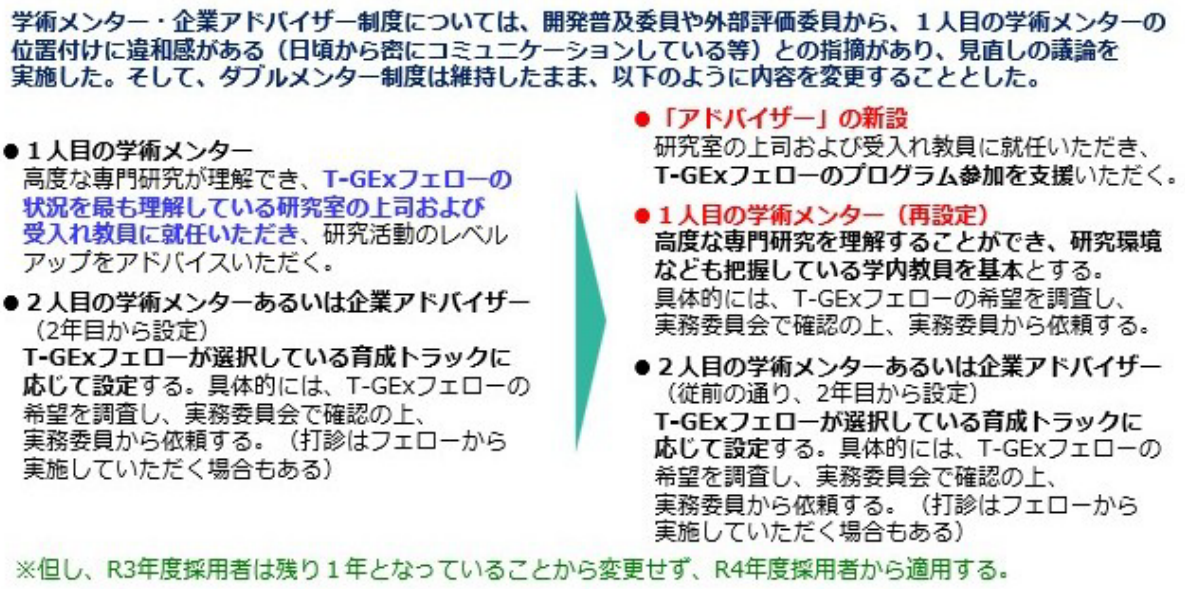


図 3-7-1-1　学術メンター制度の変更点

令和 7 年度は T-GEx フェロー22 名に対して表 3-7-1 に示したように学術メンターおよび企業アドバイザーを配置した。

表 3-7-1　T-GEx フェローの学術メンターおよび企業アドバイザー

採用年度	大学 氏名	所属部局 職名	育成トラック	学術メンター1 （大学　所属部局　氏名　職名）	学術メンター2 （大学　所属部局　氏名　職名）	企業アドバイザー （企業名　氏名　職名）
令和３年度	名古屋大学 東 直輝	大学院工学研究科 助教	学際共同研究	名古屋大学　大学院工学研究科 福澤 健二　教授	－	－
	名古屋大学 荻尾 華子	生命農学研究科 助教	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学　大学院生命農学研究科 山本 直之　教授	Centre national de la recherche scientifique（仏） Chargée de Recherche Dr. Kei YAMAMOTO	－
	名古屋大学 服部 祐季	大学院医学系研究科 准教授	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学　大学院医学系研究科 宮田 卓樹　教授	名古屋大学　大学院医学系研究科 和氣 弘明　教授	－
	名古屋大学 早川 尚志	宇宙地球環境研究所 助教	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学　大学院多元数理科学研究科 白水 徹也　教授	名古屋大学　大学院人文学研究科 周藤 芳幸　教授	－
	名古屋大学 SU Matthew Paul	高等研究院/大学院理学研究科 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学　大学院理学研究科 上川内 あづさ　教授	名古屋大学　トランスフォーマティブ生命分子研究所(WPI-ITbM) 廣田 毅　特任准教授	－
	名古屋大学 宮武 広直	素粒子宇宙起源研究所 准教授	国際共同研究	名古屋大学　素粒子宇宙起源研究所 市来 淨與　教授	名古屋大学　宇宙地球環境研究所 伊藤 好孝　教授	－
	名古屋大学 横井 暁	医学部附属病院 講師	産学連携	名古屋大学　大学院医学系研究科 梶山 広明　教授	－	東レ　新事業開発部門 山田 博之　主幹
令和４年度	岐阜大学 平島 一輝	高等研究院/大学院連合創薬医療情報研究科 G-YLC特任助教	学際共同研究	岐阜大学　応用生物科学部共同獣医学科 前田 貞俊　教授　教授	Colorado State University（米） Associate Professor Takamitsu KATO	－
令和５年度	名古屋大学 BELLEGARDE Fanny	高等研究院/大学院生命農学研究科 YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学　生物機能開発利用研究センター 芦刈 基行　教授	Institute for Plant Sciences of Montpellier（仏） Group Leader Antoine MARTIN	－
	名古屋大学 星野 藍子	大学院医学系研究科 講師	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学　大学院環境学研究科 上村 泰裕　准教授	Monash University（豪） Professor Ted BROWN	－
	名古屋大学 辻河 高陽	環境医学研究所 特任准教授	国際共同研究 学際共同研究 産学連携	名古屋大学　大学院医学系研究科 勝野 雅央　教授	－	Genome Maintenance社 嶋田 繭子　代表取締役
	岐阜大学 東 小百合	高等研究院/連合創薬医療情報研究科 G-YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究	岐阜大学　工学部化学・生命工学科 上田 浩　教授	University of Münster（独） Professor Seraphine V. Wegner	－
令和６年度	名古屋大学 伊吉 祥平	高等研究院/大学院医学系研究科 YLC特任助教	学際共同研究	名古屋大学　環境医学研究所 菅波 孝祥　教授	岐阜大学　糖鎖生命コア研究所 多喜 正泰　教授	－
	名古屋大学 上野 藍	大学院工学研究科 講師	学際共同研究	豊橋技術科学大学　次世代半導体・センサ科学研究所 高橋 一浩　教授	名古屋大学　大学院医学系研究科 高橋 義行　教授	－
	名古屋大学 宇佐見 享嗣	高等研究院/トランスフォーマティブ生命分子研究所(WPI-ITbM) YLC特任助教	学際共同研究 産学連携	名古屋大学　大学院理学研究科 八木 亜樹子　教授	理化学研究所 伊丹 健一郎　主任研究員	－
	名古屋大学 李 乃琦	高等研究院/大学院人文学研究科 YLC特任助教	国際共同研究 学際共同研究	名古屋大学　大学院人文学研究科 宮地 朗子　教授	北京大学（中） 王 頌　教授	－
	岐阜大学 柘植 紀節	高等研究院/工学部大学院自然科学技術研究科 G-YLC特任助教	国際共同研究	名古屋大学 福井 康雄　名誉教授	Western Sydney University（豪） Professor Miroslav D. Filipović	－
令和７年度	名古屋大学 本田 康平	大学院工学研究科 助教	産学連携	名古屋大学　大学院工学研究科 竹内 一郎　教授	－	－
	名古屋大学 田中 良弥	大学院理学研究科 講師	学際共同研究 産学連携	名古屋大学　トランスフォーマティブ生命分子研究所(WPI-ITbM) 吉村 崇　教授	－	－
	名古屋大学 由良 義充	医学部附属病院 助教	産学連携	名古屋大学　大学院医学系研究科 榎本 篤　教授	－	－
	名古屋大学 Raquel FP COSTA	高等研究院/教育発達科学研究科 YLC特任教員	学際共同研究	名古屋大学　大学院教育発達科学研究科 山形 伸二　准教授	－	－
	岐阜大学 岡田 大樹	高等研究院/大学院医学系研究科 G-YLC特任教員	学際共同研究 産学連携	九州大学　生体防御医学研究所 長崎 正朗　教授	－	－

2）T-GEx アソシエート

連携学術機関からの要望により、令和 5 年度から T-GEx アソシエートの希望者にも学術メンターを 1 名設定できることとしている。令和 7 年度は 4 連携学術機関の 7 名の T-GEx アソシエートと 1 連携企業の 1 名の T-GEx 企業アソシエートから希望があり、その要望を考慮した上で表 3-7-2 に示したように学術メンターを設定した。

表 3-7-2　T-GEx アソシエートの学術メンター

採用年度	学術機関 氏名	所属部局 職名	学術メンター （大学　所属部局　氏名　職名）
令和 4 年度	中部大学 新谷 正嶺	生命健康科学部 准教授	中部大学　工学部 藤吉 弘亘　教授
	豊橋技術科学大学 田村　秀希	大学院工学研究科 助教	名古屋大学　大学院情報学研究科 平井 真洋　准教授
令和5年度	三重大学 市川 俊輔	教育学部 准教授	名古屋大学　大学院医学系研究科 中山 奈津紀　准教授
	三重大学 奥原 俊	大学院工学研究科 講師	名古屋大学　大学院情報学研究科 中村 泰之　教授
令和 6 年度	豊橋技術科学大学 田尻 大樹	大学院工学研究科 助教	名古屋大学　大学院工学研究科 原 進　教授
	名城大学 黒川 裕介	農学部 助教	名古屋大学　大学院生命農学研究科 榊原 均　教授
令和 7 年度	ホーユー株式会社 澁谷 拓未	総合研究所 係長	名古屋大学　大学院情報学研究科 山西 芳裕　教授
	中部大学 山内 星子	人文学部心理学科 准教授	名古屋大学　心の発達支援研究実践センター 工藤 晋平　教授

3）学術メンターに対するアンケート調査

令和 7 年 6 月に、T-GEx フェローの学術メンター36 名を対象に T-GEx フェローの活躍や成長した能力に関するアンケート調査を実施し、28 名から回答が得られた。

〈T-GEx フェローの活躍度〉

全体的に T-GEx フェローの活躍度は優れており、図 3-7-3-1　に示した通り、国内、国際ともに「極めて優れている（5 点）」と「優れている（4 点）」が全体の 9 割以上を占めた。但し、国内では「極めて優れている（5 点）」が 5 割以上であるのに対し、国際では約 3 割に留まっており、国際的にも高いレベルで活躍できるよう育成する余地があると考えられた。

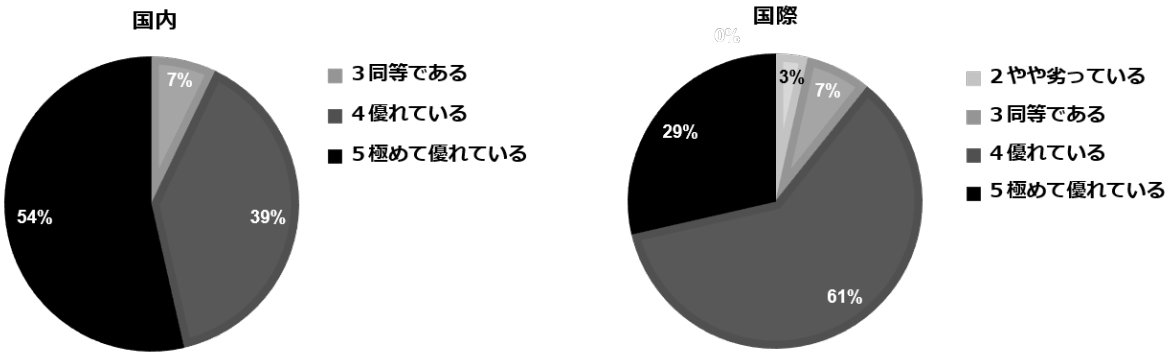


図 3-7-3-1　当該分野における T-GEx フェローの活躍度

〈1年間で大きく成長した能力〉

令和 7 年度1年間に大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー、最大3個まで）に関しては、図 3-7-3-2 に示した通り、「研究推進力」と「協働力」が他と比較して高く、研究活動のマネージメント力や協働の意識・機会が増大したフェローが多かったものと推察された。また、「高度な専門性」も比較的高い値を示し、多様な研究者との交流が共同研究の契機となるだけでなく、自身の専門性を深めている可能性が示唆された。一方、令和4年度から着実に伸長していた「世界の潮流を掴む力」の伸びは止まり、「出口志向感覚」は相対的に低値で推移していることが明らかとなった。

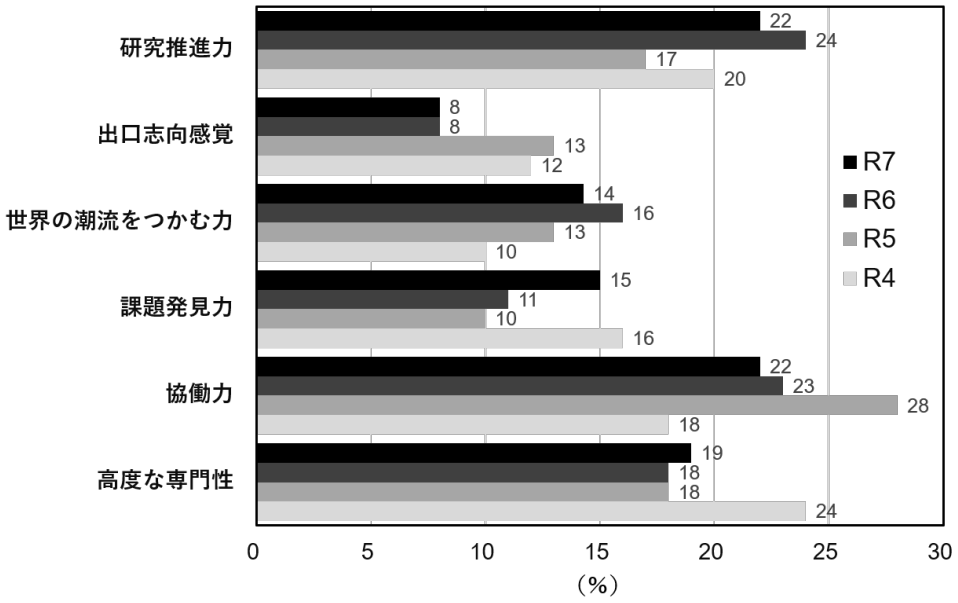


図 3-7-3-2　大きく成長した能力（知の「開拓者」コンピテンシー）

3-8　スタートアップ研究費

フェーズ 1（初年度）における自立的研究環境構築支援の一つとして、本事業で挑戦したい世界的課題の解決を目指す研究について、1 名につき 50 万円を上限に、自身のニーズに合わせて使用できる研究費の支援を行った。具体的には、令和 7 年度に採用した T-GEx フェロー5 名に対して、計 250 万円を支給した。

3-9　テーラーメード型研究費

T-GEx フェローが 5 つの育成トラック（国際共同研究、学際共同研究、産学連携、起業、拡張）から進みたいトラックを選択し、本事業で挑戦する世界的課題の解決を目指す研究について、フェーズ 2（2 年目）からの協働発展力養成の支援の一つとして、その研究費を支給した。令和 7 年度は、1 名につき 300 万円/年を上限に、T-GEx フェローから提出されたテーラーメード型研究費申請書を実務委員会（選考・評価委員会）で審査の上、配分額を決定した。具体的には、令和 6 年度までに採用した T-GEx フェロー17 名に対して、計 3,620 万円を支給した。

3-10　シーズ共同研究費

T-GEx フェローと T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートとの共同研究あるいは共同事業を推奨し、T-GEx フェローがチームを形成して申請した課題のうち、実務委員会（選考・評価委員会）の審査により採択されたものについて、研究費の支援を行った。

昨年度に続き、令和 7 年度も年 2 回の募集を行った。今年度も T-GEx フェローと企業アソシエートとの共同研究の応募があり、本事業内で産学連携の共同研究に発展しうる活発な交流ができていることが窺えた。審査により以下の合計 3 件の課題（1 回目 2 件、2 回目 1 件）を採択し、計 150 万円を支給した。

＜採択課題 1＞

【研究代表者】　T-GEx フェロー　岡田 大瑚
岐阜大学 高等研究院/ G-YLC 特任助教

【共同研究者】　T-GEx フェロー　由良 義充
名古屋大学 医学部附属病院 循環器内科　病院助教

【共同研究者】　T-GEx 企業アソシエート　澁谷 拓未
ホーユー株式会社 総合研究所 先端技術研究室 新領域研究課 係長

【研究課題名】　細胞タイプ特異的な体細胞変異の情報科学的解析と心血管疾患との関連解明

＜採択課題 2＞
【研究代表者】　T-GEx フェロー　星野 藍子
名古屋大学大学院医学系研究科　講師
【共同研究者】　T-GEx アソシエート　田村 秀希
豊橋技術科学大学大学院　助教
【共同研究者】　T-GEx アソシエート　山内 星子
中部大学人文学部心理学科　准教授
【共同研究者】　T-GEx アソシエート　髙橋 香苗
名城大学人間学部　助教
【研究課題名】　発達特性を有する人の社会生活上の困難への支援基盤の構築

＜採択課題 3＞
【研究代表者】　T-GEx フェロー　服部 祐季
名古屋大学大学院医学系研究科　准教授
【共同研究者】　T-GEx アソシエート
市川 俊輔　三重大学教育学部　准教授
【研究課題名】　母体腸内細菌叢を基点とした胎盤形成と胎児脳発生制御メカニズムの解明

3-11　国際力強化支援

昨年度に引き続き、近年の為替変動による円安や物価高の影響による T-GEx フェローの国際的な研究活動にかかる経済的制約の緩和を目的として、希望する T-GEx フェローに「国際力強化支援」として、1 名につき上限 30 万円の研究費支援を行った。

本支援は、スタートアップ研究費やテーラーメード型研究費とは異なり、(1)国際誌への論文投稿に係る費用、(2)外国出張に係る費用、(3)国際ワークショップ等のオーガナイズに伴う費用といった、国際的な研究活動に不可欠な支出に限定して支援を行うものである。今年度は 10 月に対象となる T-GEx フェロー15 名に希望調査を行い、実務委員会（選考・評価委員会）で使途を審査したうえ、希望者 11 名に計 330 万円を支給した。

＜支援対象 1＞国際誌への論文投稿に係る費用
国際的なジャーナル（Q1 ジャーナル、トップジャーナル投稿に係る費用が望ましい）への論文投稿料、論文掲載料、英文校閲費用
⇒6 名支援

＜支援対象 2＞外国出張に係る費用
国際共同研究の実験・打合せや国際学会に参加するためのフェロー本人の外国旅費
⇒4 名支援

＜支援対象 3＞国際ワークショップ等のオーガナイズに伴う費用
外国人研究者の招聘旅費・謝金、会場費等
⇒1 名支援

3-12　その他支援

T-GEx フェローのうち本事業で挑戦したい世界的課題の解決を目指す研究に不可欠な研究スペース支援を希望し、スペースの確保ができた者に対して、1 名につき 50 ㎡を上限に研究スペース利用料を措置している。令和 7 年度は 4 名のフェローに対して支援を行った。

3-13　育成プログラムに関するアンケート調査

令和 7 年度に実施した各種スキルブースターモジュールや支援に関して、T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートを対象に無記名で満足度のアンケート調査を実施した（回答数 37）。表 3-13 に示した通り、各育成プログラムは 5 段階評価（1：非常に不満　2：不満　3：普通　4：満足　5：非常に満足）でいずれも 4 以上と良好であることが確かめられた。

表 3-13　令和 7 年度に実施した各種育成プログラムに関するアンケート調査結果

年度	セミナー、イベント、環境支援等の名称	平均点
令和 7 年度	国際力強化支援金※	5.0
	学術メンター・企業アドバイザーによるメンタリング※	4.8
	URAによる支援	4.8
	テーラーメード型研究費	4.6
	スタートアップ研究費	4.6
	名古屋大学の共通機器・図書利用※	4.4
	英語プレゼンテーション研修	4.4
	若手研究者レクチャーD[3]	4.4
	研究成果エキシビション※	4.4
	PI育成セミナーシリーズ	4.4
	タスク・フォース（イベントの企画・運営）	4.3
	ロールモデル研究セミナー※	4.3
	リトリート合宿※	4.3
	研究者リーダーシップ・プログラム　シリーズ	4.3
	シーズ共同研究費※	4.2

※評価委員会で Good Practice（GP）に認定されている育成プログラム

4　モニタリング

4-1　採用した T-GEx フェローの属性一覧

令和 7 年度に採用した T-GEx フェローは 5 名で、事業開始からの合計は 29 名となった。その属性は表 4-1 に示した通りで、全体の平均年齢は 34.5 歳、助教および特任助教が 86%と大多数で、任期付きが 76%と大半を占めている。また、女性比率は 34%と比較的高く、海外国籍も 14%採用できている。

表 4-1　令和 7 年度までに採用された T-GEx フェローの属性（採用時）

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計
採用者数（人）		8	6	5	5	5	29
性別	女性（人）	2	1	3	3	1	10
	男性（人）	6	4	2	2	4	18
	非該当（人）	0	1	0	0	0	1
国籍	日本（人）	7	6	4	4	4	25
	日本以外（人）	1	0	1	1	1	4
所属大学	名古屋大学（人）	8	5	4	4	4	25
	岐阜大学（人）	0	1	1	1	1	4
職位	准教授（人）	1	0	0	0	0	1
	講師（人）	0	0	1	1	1	3
	助教（人）	7	6	4	4	4	25
任期	無（人）	2	1	2	1	1	7
	有（人）	6	5	3	4	4	22
平均年齢	（歳）	33.1	33.5	35.0	36.2	34.6	34.5

4-2　T-GEx フェローの育成トラック選択と目標達成状況

令和 7 年度までに採用した T-GEx フェローの育成トラック選択状況は、表 4-2 に示した通りである。「国際共同」或いは「学際共同」を選択するフェローが全体の 85%以上を占めており、基礎研究を志向する若手研究者が多い状況である。一方、研究成果の社会実装を目指す「産学連携」を選択した T-GEx フェローは 2 割程度で推移してきたが、令和 7 年度に採用したフェローでは 8 割（5 名のうち 4 名）が選択し、約 3 割に増加した。これは、公募要項に『「産学連携」と「起業」の選択者を歓迎する』と記載したことが影響したものと推察される。しかし、「起業」を選択するフェローは令和 5 年度に採用した 1 名に止まっている。

なお、全体の約 4 割～6 割は複数の育成トラックを選択する拡張トラックとなっており、「国際共同」、「学際共同」、「産学連携」の 3 つの育成トラックを選択するフェローも 1 割程度認められている。

表 4-2　T-GEx フェローの育成トラック選択状況

		育成トラックの選択（%）							
		1個				2個		3個	
育成期間	人数	国際共同	学際共同	産学連携	起業	国際共同 学際共同	学際共同 産学連携	国際共同 学際共同 産学連携	拡張 （複数選択率）
1年目	29	21	24	10	3	21	10	10	41
2年目	20	20	20	5	0	40	5	10	55
3年目	13	23	8	8	0	46	0	15	61
4年目	8	22	11	11	0	44	0	11	55
5年目	7	29	14	14	0	29	0	14	43

図 4-2 に選択した育成トラックに紐づく主要目標の達成者数および割合を示した。全体の達成割合（育成トラックの主要目標を 1 件以上達成したフェローの割合）は、育成期間が長くなるに従って上昇し、4 年目には 100%に達した。各育成トラック別に分析すると、「国際共同」トラックと「学際共同」トラックの 2 つの主要目標（国際的な有力学術雑誌（Q 1 ジャーナル）論文受理 2 報以上と外部競争資金の獲得）の達成率は概ね類似したパターンを示し、育成期間 5 年目にはいずれも 100%に達している。一方、「産学連携」トラックの場合には、共同研究や学術コンサルティングの相手となる民間企業を見つけるところで苦労するフェローが認められ、5 年目でも 50%程度しか達成できていない。民間企業との共同特許出願という目標は、さらに時間を要することから、かなり難易度が高いと思われる。

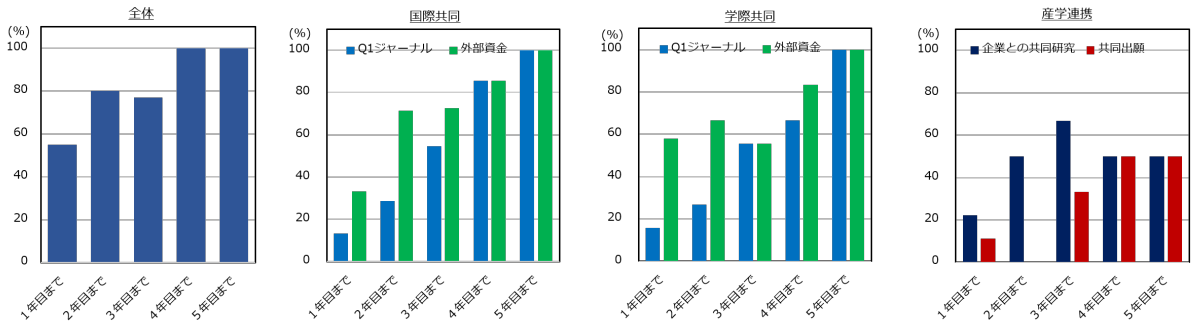


図 4-2　T-GEx フェローの育成トラックに紐づく主要目標の達成率

4-3　T-GEx フェローの研究成果の創出状況

T-GEx フェローの採用 1 年前から採用後 4 年目までの研究成果創出状況（1 人当たりの平均値）を表 4-3 に示した。成果としては、学術論文、プレスリリース、招待講演、受賞等をモニタリングしている。学術論文については、査読付き原著論文主著数、査読付き原著論文共著数、国際共著数に注目しており、いずれも採用 1 年前よりも増加し、育成期間が増加するにしたがって緩やかに増加する傾向を認めている。また、プレスリリースや国内の招待講演も採用後の増加が見られており、注目度の高い研究成果が増加していることが窺える。但し、国際的な招待講演については、増加率は大きいものの波があり、国際的なプレゼンスは成長途上にあると思われる。一方、受賞は採用後 3 年目までである程度の件数が認められたが、 4 年目に大きく減少した。これについては、若手研究者を対象とする賞の多くに 40 歳未満等の年齢制限があるためではないかと考察している。

T-GEx フェローの研究分野の幅は広く、多様性も大きいため、引き続き、フェローの人数や年度を拡大して数値変化をモニタリングしていく必要がある。

表 4-3　T-GEx フェローの研究成果創出状況

	査読付き原著論文主著数	査読付き原著論文共著数	国際共著	プレスリリース	招待講演（国内）	招待講演（国際）	受賞
採用 1 年前	1.1	3.0	1.9	0.4	1.4	0.2	0.4
採用後 1 年目	1.3	3.1	2.2	0.6	1.7	0.5	0.6
採用後 2 年目	1.5	3.4	2.5	0.5	1.6	1.1	0.7
採用後 3 年目	2.2	2.5	2.1	0.4	1.6	0.8	0.5
採用後 4 年目	2.1	4.3	2.6	0.8	2.5	0.5	0.1
増加率の年平均	161	111	124	134	130	339	110

5　運営体制

5-1　実施機関

1）実施体制

本事業の代表機関は名古屋大学、共同実施機関は岐阜大学で、令和 7 年度に変更はなかった。

2）運営関係者

令和 7 年度の変更点は表 5-1 に示した通りである。

表 5-1　運営関係者に関する令和 7 年度の変更点

	大学	職名	氏名	変更日および事項
実務委員会委員	名古屋大学	副総長補佐、高等研究院副院長、生命農学研究科 教授	榊原均	令和7年3月31日（退任）
	名古屋大学	高等研究院副院長、多元数理科学研究科 教授	白水徹也	令和7年4月 1日（就任）
	名古屋大学	大学院医学系研究科 教授	鈴木洋	令和7年4月 1日（就任）
実務担当	岐阜大学	学術研究・産学官連携推進本部 特任教授	阿部正樹	令和7年3月31日（離任）
	岐阜大学	高等研究院、研究組織マネジメント支援部門 教授	渡辺昌規	令和7年4月1 日（着任）
事務	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長	小暮光生	令和7年3月31日（離任）
	名古屋大学	研究協力部 次長(研究企画課長兼務)	浅田進矢	令和7年4月 1日（着任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長補佐	松本豊	令和7年3月31日（離任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課 課長補佐	水野克彦	令和7年4月 1日（着任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 専門員	内藤賀子	令和7年3月31日（離任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 専門員	丹村慶典	令和7年4月 1日（着任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務職員	古野葉月	令和7年11月7日（離任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務補佐員	渡邊 はるい	令和7年11月4日（着任）
	名古屋大学	研究協力部研究企画課研究企画グループ 事務補佐員	棟近まろみ	令和7年10月1日（着任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 課長	鷲見浩二	令和7年3月31日（離任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課 課長	小倉美穂	令和7年4月 1日（着任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課産学官連携係 係長	内田智也	令和7年3月31日（離任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課産学官連携係 主任	後藤由季	令和7年3月31日（離任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課産学官連携係 事務補佐員	加藤有美	令和7年3月31日（離任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課産学官連携係 係長	石川誉	令和7年4月 1日（着任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課産学官連携係 主任	矢崎寛子	令和7年4月 1日（着任）
	岐阜大学	研究推進部研究推進課産学官連携係 事務補佐員	加藤沙佳	令和7年4月 1日（着任）

5-2　連携機関

1）連携体制

令和 7 年度の連携機関の変更点は表 5-2 に示した通りである。

2）事業推進委員

令和 7 年度の連携機関の事業推進委員に関する変更点は表 5-2 に示した通りである。

表 5-2　事業推進委員に関する令和 7 年度の変更点

連携学術機関	事業推進委員（職名、氏名）	変更日および事項
大学共同利用機関法人自然科学研究機構	理事 上野直人	令和7年4月1日 委員交代
連携企業		
株式会社FUJI	課長 永田良	令和7年 5月21日 加入
アイホン株式会社	部長 宮本翔平	令和7年 6月 5日 加入
東海東京証券株式会社	副カンパニー長、執行役員 牧野克人	令和7年 6月 5日 加入
株式会社Mizkan Holdings	中央研究所長 岸幹也	令和7年 6月 5日 加入
株式会社インフォメーション・ディベロップメント	フェロー 牧野剛明	令和7年 7月 7日 加入
日東工業株式会社	部長 三田村恵介	令和7年 9月 1日 加入
日本特殊陶業株式会社	主管専門職 竹内裕貴	令和7年10月30日 加入
名古屋電機工業株式会社	室長 宇佐美穣	令和8年 2月 1日 加入
フジクリーン株式会社	主幹 江涼誠	令和8年 2月10日 加入
イビデン株式会社	グループマネージャー 峪田宜明	令和8年 2月25日 加入
株式会社MTG Ventures	代表取締役社長 藤田豪	令和8年 3月31日 退会

5-3　委員会等

5-3-1 知の「開拓者」コンソーシアム総会

●日時：令和 8 年 3 月 10 日　16 時～17 時 45 分（情報交換会 18 時～19 時 30 分）

●参加者：統括責任者、実施責任者、共同実施責任者、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ（PM）、
実務委員会委員、連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、
外部評価委員（国内）、T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、
T-GEx 企業アソシエート、事務局（教員、URA、事務関係者）

●場所： TOIC NAGOYA

●会議様式：ハイブリッド

PM より令和 7 年度の事業実績全般の説明があった後、タスク・フォース担当者より 3 つの企画・運営が報告された（①リトリート合宿：森田尭アソシエート（中部大学）、②研究成果エキシビション：岡田大瑚フェロー（岐阜大学）、③若手研究者レクチャーD³：新谷正嶺アソシエート（中部大学））。さらに PM より、令和 7 年度の活動の改善点を踏まえ、令和 8 年度の事業計画の要点や令和 8 年度 T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートの採用状況について説明があり、活発な質疑応答、意見交換が行われた。また、統括責任者より、本年度で育成終了となった T-GEx フェローに対する修了証をはじめ、育成期間に顕著な活躍を遂げたフェロー、アソシエート、企業アソシエートに対するプログラム表彰、研究成果エキシビションのショートプレゼンテーションとポスター発表における最優秀発表賞がそれぞれ授与された。

5-3-2 事業推進委員懇談会

●日時：令和 7 年 12 月 17 日　11 時 30 分～12 時 30 分

●参加者：統括責任者、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ（PM）、実務委員会委員、
連携機関（学術機関、企業、国際協力）の事業推進委員、
事務局（教員、URA、事務関係者）

●会議様式：対面

PM より、事業の現状が報告され、認知度向上とプログラムの普及に向けた取り組みについての協力依頼があった。その後、質疑応答があり、各機関内での若手研究者支援の取り組みや昨今の国際情勢について活発な意見交換が行われた。

5-3-3 運営協議会

●日時：令和 8 年 2 月 18 日　11 時～12 時 30 分

●参加者：実施責任者、共同実施責任者、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ（PM）、実務委員会委員、
事務局（教員、URA、事務関係者）

●会議様式：オンライン

PM より令和 7 年度の事業実績のほか、令和 8 年度採用の T-GEx フェロー、T-GEx アソシエートおよび T-GEx 企業アソシエートの選考状況、ならびに連携企業の誘致活動及び入会状況について報告があり、意見交換を行った。また、令和 8 年度の事業計画の要点、令和 7 年度「知の『開拓者』コンソーシアム総会」のプログラムに関して審議を行い、提案内容が承認された。

5-3-4 実務委員会

●頻度：年間 10 回（不定期、メール審議を含む）

●参加者：ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）

●会議様式：オンライン

実務委員会では、事業運営に関する重要事項について協議した。実務委員会の中に設置したプログラム開発検証委員会においては、例年通り、トランスファラブルスキル向上のための各種セミナーやイベント等のスキルブースターモジュール開発を協議し、とりわけ令和 8 年度以降のプログラムの普及に向けた取り組みについて議論した。また、選考・評価委員会においては、T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートの募集・選考を行うと共に、育成期間 3 年が経過した T-GEx フェローの中間評価及び、令和 7 年度で育成期間を満了する T-GEx フェローの最終評価について協議した。この他、選考・評価委員会では競争的資金のテーラーメード型研究費、シーズ共同研究費、国際力強化支援の審査等も実施した。

5-3-5 名大-岐大連携会議

●頻度：月 1 回（定期）

●参加者：ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ（PM）、実務委員会委員、事務局（教員、URA、事務関係者）

●会議様式：オンライン

代表機関の名古屋大学と共同実施機関の岐阜大学の間の情報共有や意見交換をタイムリーかつ円滑に実施するため、令和 4 年度より名大-岐大連携会議を設置している。連携機関拡充を含めた運営体制の改善、各種育成プログラムの充実化、予算使用状況の確認、各種予定の共有などを行い、率直な意見交換を実施した。

5-3-6 定例会議

●頻度：週 1 回（定期）

●参加者：ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｰｼﾞｬｰ（PM）、名古屋大学の実務委員会委員、
名古屋大学の事務局（教員、URA、事務関係者）

●会議様式：オンライン

事業運営上の課題抽出と対応をスピーディーに行うため、令和 4 年度から代表実施機関の名古屋大学に定例会議を設置している。育成対象者の育成計画の策定から運営上のスケジュール調整に至るまで、事業運営に関する様々な課題をタイムリーに抽出し、計画的な対応に向けた意見交換を行った。

5-4　外部評価委員

令和 4 年度に決定した表 5-4 に示した 7 名の外部評価委員（学術関係者 5 名（うち海外 2 名）、企業関係者 2 名）のうち、6 名は令和 7 年度も継続して就任いただいた。また、ご本人からの申し出により 1 名が退任となり、新規に東京大学の隠岐さや香教授に就任いただいた。「研究成果エキシビション」や「知の『開拓者』コンソーシアム総会」等をご案内し、オンサイトでご参加いただいた委員からは運営の改善等に関してアドバイスをいただいた。

表 5-4　外部評価委員会委員

氏名	国	所属	職名
財満鎭明	日本	名城大学	教授
隠岐さや香	日本	東京大学	教授
岩渕明	日本	岩手大学	名誉教授
Roger Goodman	英国	オックスフォード大学	教授
Yi-Fang Tsay	台湾	中央研究院分子生物研究所	特聘研究員
我妻三佳	日本	本田技研工業株式会社	取締役
村瀬賢芳	日本	日鉄ケミカル＆マテリアル株式会社	取締役常務執行役員

6　事業中間評価

事業開始から 5 年目を迎え、本年度は総合支援事業評価委員会による中間評価を受審した。評価の結果、事業全体については「A 評価」を獲得し、概ね優れた水準で実施されているとの評価を受けた。一方、より適切な KPI の設定や、世界的トップ研究者への成長を示す実績データの収集・分析について改善の余地があるとの指摘を受けた。これを踏まえ、実務委員会において対応方策の検討を開始し、事業のさらなる高度化に向けた取組を進めている。

7　予算減額の対応

令和 6 年 11 月に、文部科学省より令和 8 年度の交付金が当初予定より大幅減額となる見込みであるとの通知があった。運営協議会や実務委員会において協議を重ねたところ、既に採用している T-GEx フェロー、T-GEx アソシエート、T-GEx 企業アソシエートへ提供するプログラムや支援をできるだけ維持し、モチベーション低下を抑止する方針で対応することとなり、最終的に令和 8 年度のフェロー採用数を調整することとなった。

見直し後の項目別の金額や KPI を含む詳細な令和 8 年度の予算計画は、令和 7 年 10 月の開発普及委員会で説明し、承認された。

8　寄附金

令和 7 年度においても、ダイドー株式会社様より本事業の趣旨にご賛同いただき、多額の寄附金を賜った。また、ウェブサイトに寄附募集ページを設置し、研究成果エキシビション等の機会を通じて広く寄附を呼びかけるなど、寄附金の受入れ拡大に向けた取組を継続実施している。